

<b>講義名</b>	オ)経営情報システム論【経済学部】			
<b>担当教員</b>	多井 剛			
<b>開講期・曜日・時限</b>	前期 木曜日 2時限	<b>授業形態</b>	講義	
<b>履修開始年次</b>	3年生	<b>単位数</b>	2	<b>備考</b>
<b>主題と概要</b>				
<p>組織運営にICTを活用するのは現在では当然のことに行われています。企業の最新事例をできるだけ多く紹介します。企業におけるコスト削減などの効率化や、より早く優れた製品・サービスを開発するために、企業は経営情報の処理をICTに頼らざるを得ないという立場に立った授業です。授業では、個々の企業に適した経営情報システムとはどのようなものか、自らの職場で発見できる見識を養成し、将来的には責任者「Chief Information Officer（最高情報責任者）」を目指します。</p>				
<b>到達目標</b>				
組織運営における問題について、情報システムによる改善提案ができるようになる。				
<b>提出課題</b>				
組織内でChief Information Officer（最高情報責任者）に必要な素養について課題回答を求めます。				
<b>課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバック</b>				
課題の講評を授業中に行います。				
<b>評価の基準</b>				
提出課題と期末テストの内容・回答を総合的に評価します。				
<b>履修にあたっての注意・助言他</b>				
良い成績を修めるには、ノートを書くことが必要です。配布資料上記ノートを書くためにラウンドボール紙を活用するのはよいことです。				

<b>教科書</b>				
.使用しない。				
<b>プリント資料及び参考文献</b>				
<p>講義内容は事前にRYUKA Portalの講義配布資料に保存して学生と共有します。以下の雑誌、ホームページを参考文献とします。  * 作社 株式会社 伊藤社・レポート・セミナー・雑誌  * ブリヂング社 ブリヂング社誌  CNET Networks社 CNET newsサイト <a href="https://japan.cnet.com/news/">https://japan.cnet.com/news/</a>  日経産経 クロステックサイト <a href="https://xtech.nikkei.com/">https://xtech.nikkei.com/</a>  アイティメディア社 ITmediaサイト <a href="http://www.itmedia.co.jp/">http://www.itmedia.co.jp/</a>  Impress Watch社 クラウドWatchサイト <a href="http://cloud.watch.impress.co.jp/">http://cloud.watch.impress.co.jp/</a></p>				
<b>授業計画</b>				
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 はじめに（授業のねらい説明など）</li> <li>2 業務と情報システム</li> <li>3 業務の効率化に寄与するICT</li> <li>4 業務の高度化に寄与するICT</li> <li>5 新しい業務を創り出したICT</li> <li>6 組織における情報システムのインフラストラクチャー</li> <li>7 情報通信ネットワーク</li> <li>8 企業間情報システムの発展</li> <li>9 企業間情報システムの標準化</li> <li>10 日本政府の経営情報システムに対する取り組み</li> <li>11 法律と経営情報システム</li> <li>12 企業における情報システムのセキュリティ</li> <li>13 国内の経営情報システム構築の歴史</li> <li>14 国内の経営情報システムの進化</li> <li>15 まとめ</li> </ol>				
<b>授業形態（アクティブ・ラーニング）</b>				
	ア：PBL（課題解決型学習）		イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）	
	ウ：ディスカッション、ディベート		エ：グループワーク	
	オ：プレゼンテーション		カ：実習、フィールドワーク	
	キ：その他（A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）			
<b>準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間</b>				
授業で使う資料やURLは、RYUKA Portalの「講義連絡」にて事前に配布しますので、予習・復習に利用してください。予習と復習を合わせて4時間以上が必要です。				
<b>卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連</b>				
経済活動を行っている（主に）企業の効率化に焦点を当て、ICTで解決できた問題の事例学修とこれから起こりうる問題への応用力を身に着ける。				
<b>双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述</b>				
学修の進捗を確認するため、Responを利用して復習テストを行います。				
<b>実務経験の有無及び活用</b>				
実務経験20年あり （プログラマー システムエンジニア ICTコンサルタント） ICTによる組織の問題解決に必要な事例を授業内で解説します。				
<b>備考</b>				
情報処理技術者試験合格を目指す人に必要な内容を含んでいます。				